

国際文化情報学会実施要項

開催日時：2018年11月24日（土）

12時40分～13時20分 学会総会

13時30分～18時00分 研究発表会

18時10分～20時00分 表彰式 懇親会

場所： 総会：外濠校舎S407

研究発表：外濠校舎各教室 4F ギャラリー

表彰式・懇親会：さったホール

1. 開催の目的

国際文化情報学会は学部、院の理念に則り、「情報文化コース」「表象文化コース」「言語文化コース」「国際社会コース」の各コースの講義やゼミ、SAを通じて得た知見や経験を生かした研究、創作の発表の場である。学部生や大学院生に広く参加を呼びかけて、行われる学会は卒業研究、卒業制作、修士論文の中間発表の場としても活用できるし、日頃の研究、創作活動の成果を学部、院の内外に問う機会となる。また同級生や上級生の発表に刺激を受け、研究、創作活動への取り組みのモチベーションを高める。

2. 研究発表部門

審査ありと審査なしの二つの発表区分を設けることとする。前者は従来とおり、教員、学生、院生の委員による審査を実施するが、後者は発表のみとし、審査を行わない。審査ありのエントリー数の上限を論文部門の学生の発表は30程度、院生の発表は20程度、ポスター、映像、インスタレーションの各部門は10程度とする。それぞれの上限を大幅に越えた場合は一次審査を行い、規定数まで絞る。一次審査を通過しなかった発表者は自動的に審査なし部門での発表となる。エントリー数が本審査で対応できる範囲内と企画広報委員会が認めた場合は一次審査を行わず、学会当日の本審査のみとする。一次審査は学部専任教員五人によって、発表概要に対して行われる。一次審査の審査員は学部の四つのコースから一人ずつと企画広報委員の一人によって構成される。審査なしの発表には制限を設けない。審査の有無にかかわらず、発表教室にはレスポンスシートを置き、学会参加者は一つでも多くの発表を聴講し、感想を書き込む。

(A) 論文発表：質疑応答を含め30分。

(B) ポスター発表：模造紙1～6枚まで。補助の机をボード前に設置可。審査の都合上、審査員対象に行うプレゼンテーションにかかる時間は5分以内、その開始時間の指定はできない。

(C) 映像作品：質疑応答を含め30分、ただし学部紹介ビデオ本編は10分以下。

(D) インスタレーション、パフォーマンス：一教室を用いて70分。

3. 学会発表資格

国際文化情報学会会員。学会員でない発表希望者は国際文化学部専任教員の推薦と学会長の認可を受ければ、当該年度に限り、会員と同等の資格を得ることができる。ただし、学会運営者が招聘するゲスト講師はこの縛りを受けない。また、聴講の制約は設けない。

4. 応募締切

11月5日（月）15時までに、メールで学部事務 jkokusai@hosei.ac.jp に応募フォームとレジュメを Word 形式で提出（締め切り厳守、PDF 不可）。応募の際、メールの件名は以下のとおりとする。

件名：国際文化情報学会応募【発表部門】代表者氏名（ゼミ名）

例. 島田ゼミ生（代表者：国際花子さん）が A 部門（論文発表）に応募する場合
→「国際文化情報学会応募【A】国際花子（島田ゼミ）」

例. ゼミに所属していない場合
→「国際文化情報学会応募【A】国際花子」 ※ゼミ名を記載しない

5. 応募フォーム

応募フォームは各自ダウンロードし、必要事項を書き込むこと。

発表教室に必要な設備があるかどうかは教室配分が決まったところで各自確認すること。原則として発表に必要な機材（パソコン、追加のプロジェクター）、器具、小道具などは発表者が揃えること。希望に添えるかどうかわからないが、発表希望教室があれば、それも明記する。ただし、廊下や屋上、トイレなどのスペースは使えない。

6. 発表概要

書式に従い、応募部門・発表者氏名・ふりがな・メールアドレス・テーマ・所属ゼミを明記し、1200字以内の発表概要を提出すること。発表概要は学会当日資料として配布するので、（書式A、Bは必ず一緒に提出すること）審査あり、審査なしに関わらず、応募者は全員提出する。

7. 審査

審査は学会当日の発表を見て、行う。論文の審査は学会当日の発表を見た教員二名、学生または院生審査員三名による採点（各10点満点）の合計によって、ポスター、映像作品、インスタレーション発表の審査はそれぞれ教員三名、学生または院生審査員四名の採点（各10点満点）の合計によって、最優秀賞1件、奨励賞2件を決定する。万が一、審査員に欠員が生じた場合は控えの審査員を派遣するが、事情によりそれができなかった場合はその発表者の審査に当たった教員、学生審査員全員の評点の平均点を欠員分の評点として加点する。

8. 表彰

審査ありの A,B,C,D の部門ごとに最優秀賞 1 件 (現金 2 万円)、次点に奨励賞 2 件 (現金 1 万円)を贈る。ただし、A 部門の論文発表については学部学生と院生の二部門に区分し、それぞれに賞を贈り、教員および外部参加者は除外する。

同点で最優秀賞が 2 件以上、奨励賞が 3 件以上出た場合、教員の採点が高い順位で決定する。それでも差がつかない場合、同点の両者に該当の賞を与える。ただし、最優秀賞が 2 件でた場合、奨励賞は 1 件とする。応募が 3 件以下の場合是最優秀賞 1 件のみとする。受賞者に対して、点数を発表する。講評に関しては、学会終了後に発表者の要望に応じて、閲覧できるようにする。発表者から評価をめぐる疑義が生じた場合、企画広報委員会のなかに、審査調査委員会を立ち上げ、審査員に評価の確認を依頼し、審査が厳密に行われたかを調査する。

9. 制作補助

B 部門の発表については 1 万円、C,D 部門の発表については、3 万円までの制作費を実費で支給する。制作にかかった費用のリストに領収証を添えて、11月30日(金) 17:00までに学部事務に提出すれば、企画・広報委員が審査し、妥当と思われる金額を支給する。

10. 『異文化』への掲載

学会終了後に発表の成果報告を加えて改稿した発表概要を『異文化』に学会報告として掲載する。また、最優秀賞受賞作は『異文化』に掲載する。発表概要の改稿は『異文化』の締切に間に合わせる。パフォーマンスや映像作品に関しては、誌面に掲載可能な形態のものに限る。C の学部紹介ビデオ作品のうち、執行部が学部の宣伝に活用したい場合は別途相談する。

<評価基準>

発表の評価基準は以下に示す通り。

① A 部門 (論文)

1. テーマ設定、問題提起に興味をそそられたか?
2. 発想に独創性や意外性があったか?
3. 論理展開はしっかりしていたか?
4. 先行研究を踏まえ、引用や参照が示されていたか?
5. 発表の仕方に工夫がこらされていたか?
6. 冗長や不足がなく適切に表現されていたか?
7. プレゼンテーションに説得力はあったか?
8. レジюмеや資料、パワーポインター、映像に不備はなかったか?
9. 質疑に対して適切な回答が得られたか?
10. 持ち時間を有効に使い、時間内に発表を終えたか?

② B 部門（ポスター）

1. テーマ設定、問題提起に興味をそそられたか？
2. 発想に独創性や意外性があったか？
3. 論理展開はしっかりしていたか？
4. 先行研究を踏まえ、引用や参照が明示されていたか？
5. 発表の仕方に工夫がこらされていたか？
6. 冗長や不足がなく適切に表現されていたか？
7. ポスターの表示や機材に不備はなかったか？
8. ポスターの完成度は高かったか？
9. 口頭説明は規定時間内（5分以内）に終わったか？
10. 質疑に対して適切な回答が得られたか？

③ C 部門（映像）

1. テーマ設定、問題提起に興味をそそられたか？
2. ストーリー展開や論理展開に説得力はあったか？
3. 印象や記憶に残るフレーズやシーンがあったか？
4. 手法に独創性や意外性があったか？
5. 映像編集に工夫が見られたか？
6. 音声は聞き取りやすかったか？
7. 出典を明示するなど、映像や音楽の引用は適切に行われていたか？
8. 機材の操作に不備はなかったか？
9. 質疑に対して適切な回答が得られたか？
10. 持ち時間を有効に使い、時間内に発表を終えたか？

④ D 部門

1. テーマ設定、問題提起に興味をそそられたか？
2. 発想に独創性や意外性があったか？
3. 展示の仕方やパフォーマンスに工夫が凝らされていたか？
4. 展示の仕方やパフォーマンスのエンターティメント性は高かったか？
5. 印象や記憶に残る要素があったか？
6. 作品の完成度は満足のいくものだったか？
7. 引用や参考資料は明示されていたか？
8. 機材や装置の操作に不備はなかったか？
9. 口頭説明に説得力はあったか？
10. 質疑に対して適切な回答が得られたか？

評点の指標として以下を参照。

10～9 優秀賞に値する。

8～7 奨励賞に値する。

6～4 可もなく不可もない。

1～3 劣っている。